

1. 本園の教育目標

- 設立母体であるカトリック守護の天使の姉妹修道会の教育方針に沿って、園と家庭が一体となって、あたたかい宗教的雰囲気の中で幼児の基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間形成の基礎づくりを目指す。
- 教育理念の基本である『素直な心』『思いやりの心』『頑張る心』『祈る心』『感謝の心』を大切にして、神様が私たちを愛してくださっていることを知り、一人ひとりを大切にされた保育を通して、そのいのちと心の輝きを育てる。
- 幼稚園生活を楽しみ、充実感を味わいながら様々な活動に自分から進んで取り組み、将来どんな試練にも立ち向かい乗り越えていく「生きる力」を養う。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 教育課程・指導計画の見直し
- ② 教員の資質の向上
- ③ 健康・安全管理
- ④ 子育て支援の充実
- ⑤ 組織の運営

3. 評価項目の達成および取り組み状況

【評価の基準】

A 十分達成されている B ほぼ達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取り組みが不十分である

課題	取組状況	具体的な取り組み
① 教育課程・指導計画の見直し	B	○全教職員が、様々な研修会に参加し、幼稚園教育要領の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10の姿)の理解を深め、生きる力の基礎を育てることを意識した指導計画を再編成していく。結果として、様々な研修会に参加し、様々な分野の理解のもと、指導計画に活かすことができるようになってきた。
	B	○分野別トップリーダー・学年主任を中心に、子ども達が主体的に活動できる保育内容を計画し、その日々の活動を振り返り、また、学期ごとにも保育を振り返り、各クラスの成果と課題をまとめ、次の学期にねらいを持って取り組めるように指導計画の見直しを行い、子ども理解を深めていく。結果として、十分な振り返りの時間が取れなかったこともあり、今後も継続していく。学期ごとには全員で振り返りの時間を持つことができたことがよかった。
	B	○本園の教育理念の基本でもある『心の教育』をさらに深め、また、子どもたち一人一人が愛すること、愛されることの喜びを実感し、命を大切にする心、違いを認め合う心を大切にして、園生活を安心して過ごせる環境を作る。結果として、環境面では、一人ひとりの教職員が、心の教育の大切さは実感できてきたが、心の教育についての研修が十分にを行うことができなかったため、今後も継続して取り組んでいく。
	A	○支援を必要とする子どもが抱えている困難さについて学び、子ども達一人ひとりが自分らしく生きていけるように、個別の支援計画を策定し、子ども達に寄り添った丁寧な保育を行う。結果として、多くの子ども達の成長発達につながってきているため、今の状況に満足せず、常に、これからも研修を継続し、子ども一人ひとりを大切にされた保育を実践できるようにする。

	A	○十分に体を動かす運動遊びや英語講師による英語遊び、楽器遊びなどバランスよく取り入れながら、指導計画を策定する。結果として、それぞれの活動をバランスよく取り入れ、十分に組み合わせることができた。
② 教員の資質の向上	A	○全教職員が外部講師による園内研修や園外の様々な研修に参加し、専門性の向上をはかる。結果として、特別支援、音楽の専門の講師による研修を行うことができた。
	C	○支援を必要とする子どもたち一人ひとりが、どのようなことに困難を抱えているのか、また、どのような支援を必要としているのか、理解を深め、それに教職員が寄り添い共に生きる視点に立ち、特別支援教育についての理解を深めていく。結果として様々な研修に参加し、特別支援教育の理解を深めることができた。しかし、療育先との連携、園での保育活動にしっかりと活かすまではできなかった。
	B	○学年主任や分野別トップリーダーを中心に縦・横の連携を大切にして、教職員が自由に悩み相談や意見交換などができる環境作りを引き続き目指す。取り組みの結果として、主任会議では意見を言い合える環境になってきた。
③ 健康・安全管理	B	○子どもの命を守る教育(火災・地震・交通安全・流行性の病気)の充実を図り、安全意識を高めて園児自身が意識して行動できるように援助する。結果として、毎学期、訓練を行うことができたが、今後、予期せぬ災害に対する訓練の積み重ねを取り入れることが必要である。
	A	○園生活の中で、流行性の感染症(新型コロナウイルス感染症・インフルエンザなど)や安全面・衛生面に考慮した指導を教職員全体で共通理解しながら取り組む。結果として、教職員全体で流行時には共通理解のもと保育を行うことができた。
	A	○エビペン講習会の実施・アレルギー対応の知識向上と共通理解に努める。結果として、講習会を実施し、学ぶことができた。
	A	○全教職員が子どもの安全な園生活のために、あらゆる危機に対応できるように、危機管理マニュアルを見直し、教職員の共通理解を図る。結果として、危機管理マニュアルを改訂することができた。
④ 子育て支援の充実	A	○満3歳児クラス入園前の準備クラスを充実させ、9月からの満3歳児クラスの子どもたちがスムーズな園生活をスタートできるように計画する。結果として、スムーズな園生活をスタートさせることができた。
	B	○さゆりエンジェル A コース(親子分離をしたクラス編成のコース)、B コース(親子教室、親子の触れ合いの場)、園庭開放のそれぞれの参加人数枠を増やし、英語遊びや読み聞かせ、WARAリズムなど内容の充実を図る。結果として、たくさんの方に参加してもらえたが、今後、もっとたくさんの方に参加してもらうために、色々な場所で告知できるように工夫をしていく。
	B	○子育て何でも相談室を設置し、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場を作り、一人一人の保護者に寄り添える体制作りを目指す。結果として、申し込みが10名ほどいたが、もっとたくさんの方に活用してもらえるように考えていく。
	A	○1,2歳児の親子を対象に、友達作りの場、育児に悩む保護者に寄り添う場として「こひつじクラブ」を充実させていく。結果として、たくさんの方に参加していただくことができ、未就園児クラス・満3歳児クラスにつなげることができた。
⑤ 組織の運営	A	○ホームページに加えて、インスタグラムも活用して、様々な取り組みの発信を行い、多くの人にカトリックさゆり幼稚園の取り組みを知ってもらい、今後も、さゆり幼稚園を身近に感じてもらうように広報活動の拡充を図る。結果として、インスタグラムのフォロワー数も増え、たくさんの方にさゆり幼稚園を知ってもらうことができ、好評を頂けた。
	A	○教育活動について、目標(Plan)-実行(Do)-評価(Check)-改善(Action)というPDCAサイクルに基づき継続的な改善に取り組む。結果として、この一年、振り返りながら、改善に取り組んできた。
	B	○園のICT化に伴い、行事案の共有化をして、保育後の業務に関しての時間の使い方を見直し、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身に付け、作業効率を上げる。結果として、様々な場面で作業の効率化を図ることができたが、行事の内容などについては今後も改善すべき点があるため、見直していく。

A	○教職員の勤怠管理、有給休暇取得などが定着してきているが、育児や介護などの必要な教職員も働けるように様々な働き方ができる職場作りを目指す。結果として、退職する教職員が減り、教職員の定着率が上がった。
---	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価	理由
B	<p>○2023度は、ようやく新型コロナウイルス感染症が「5類」となり、様々な制限が解除され、多くの園行事を保護者のかたに見て頂き、行うことができた。一年を通して、今までと変わらず、どのような中でも子どもたちの安全を第一に考え園運営を行ってきた。これからも想定外のことが起きたとしても、子ども達のことを第一に考えて、子どもの育ちを支えていきたい。</p> <p>○子ども達の主体性を身につけるための保育、遊びを中心とした活動と設定保育とのバランスを見つめ直してきたが、幼稚園教育要領の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10の姿)をしっかりと理解して、保育計画を立てられるようになってきた。また、運動面への取り組みについても、小学校以降の卒園児の様子を聞き、育ってきていると思われるので、今後も継続して取り組み、実施した保育計画を見直し、改善していく。</p> <p>○毎年、園医からのアドバイスを受けてさゆり幼稚園の子ども達の身体の使い方の弱い面をアドバイスとしていただき、保育に取り入れてきた。今後もアドバイスを受けて保育にどのように取り入れていくか教職員全員で考えていく。</p> <p>○今年度も、多くの教職員が研修への参加が見られたが、中堅以上の教員はマネジメント分野もしっかりと研修を受けていくことが求められるが、まだ、出来ていない教員が多くいるため、今後研修を受けていく。日々の保育の準備は効率的に行えるようになってきているが、研修の共通理解の時間を持つことができなかった。今後は、研修の共通理解や園内研修も実施し、保育の質の向上に努めていきたい。</p> <p>○昨年度末にICT化を進めてきたが、使い方も慣れてきて、業務の効率化を行うことが出来た。</p> <p>【年度末アンケートの結果】</p> <p>○カトリックさゆり幼稚園は心の教育を大切にして、「素直な心・思いやりの心・頑張る心」が育つよう心掛けていくという設問に対して、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が、満3歳児を含めた4学年で100%となり、非常に高い評価を得ることができた。しかし、実際の子どもの様子についての「思いやりの心」「祈りの心」「感謝の心」「我慢する心」「頑張る心」が育ってきているかの設問に対しては、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が94.2%あり、昨年度の92.3%より1.9%増加したが、今後も引き続き、心の教育を大切にして、日々取り組んでいきたい。</p> <p>○「本園に入園させて満足している」という設問に対し、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が、満3歳児クラスも含めた4学年で100%という結果となり、非常に高い評価を得ることができた。</p> <p>○今回のアンケート結果で頂いた意見の中の改善すべき点について、今後検討し、改善できるところは取り組んでいく。</p>

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
① 教育課程・指導計画の見直し	<p>○全教職員が、幼稚園教育要領の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10の姿)の理解を深め、生きる力の基礎を育てることを意識した指導計画を再編成していく。</p> <p>○支援を必要とする子どもたち一人ひとりが、どのようなことに困難を抱えているのか、また、どのような支援を必要としているのか、理解を深め、それに教職員が寄り添い共に生きる視点に立ち、療育先とも連携をはかり、特別支援児についての理解を深めていく。</p> <p>○運動遊び、英語遊び、楽器遊びに加えて、絵本の読み聞かせも取り入れ、バランスのよい指導計画を策定する。</p>

② 教職員の資質の向上	<p>○分野別トップリーダー・学年主任を中心に、若手の育成にしっかりと取り組み、若手教員が幼稚園教諭の仕事の楽しさや充実感を感じられるように援助する。また、縦のつながりをしっかりと持ちながら、若手教員の悩みにより沿い、適切なアドバイスを行う。</p> <p>○保育後の業務に関しての時間の使い方の見直し、園のICT化を進めてきたが、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身につけていく。</p> <p>○リーダーであることの自覚を持ち、園行事の見直し、若手の育成など、園全体を見ながら行事や保育計画を考える力をつけていく。</p> <p>○園内研修を実施し、各学年の指導計画の見直しを行い、教員の指導力の向上を目指す。</p> <p>○学期ごとに全教職員が園内研修に参加し、一人ひとりがカトリックさゆり幼稚園の教職員としての役割に気づき、資質向上に努めていく。</p>
③ 健康・安全管理	<p>○子どもの命を守る教育(火災・地震・防犯・交通安全・)の充実を図り、安全意識を高めて園児自身が意識して行動できるように練習を積み重ねていくと共に、教職員も対応力を身につけていく。</p> <p>○園生活の中で、流行性の病気(マイコプラズマ・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザなど)や安全面・衛生面に考慮した指導を教職員全体で共通理解しながら取り組む。</p> <p>○エピペン講習会の実施・アレルギー対応の知識向上と共通理解に努める。</p> <p>○新しく改定した危機管理マニュアルをしっかりと理解し、子どもの安全な園生活のために、あらゆる危機に対応できるように、共通理解を図る。</p>
④ 子育て支援・未就園児クラスの充実	<p>○満3歳児クラス入園前の準備クラスを充実させ、6月からの満3歳児クラスの子どもたちがスムーズな園生活をスタートできるように計画する。</p> <p>○さゆりエンジェル A コース(親子分離をしたクラス編成のコース)、B コース(親子教室、親子の触れ合いの場)、園庭開放のそれぞれの参加人数枠を増やし、引き続き、英語遊びや読み聞かせ、WARA リズムも取り入れながら、内容を充実させていく。</p> <p>○子育て何でも相談室を継続し、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場を作り、より多くの保護者に寄り添える体制作りを目指す。</p> <p>○1,2歳児の親子を対象に、友達作りの場、育児に悩む保護者に寄り添う場として「こひつじクラブ」を継続して、入園につなげていく。</p>
⑤ 組織の運営	<p>○ホームページに加えて、インスタグラムも活用して、様々な取り組みの発信を行い、多くの人にカトリックさゆり幼稚園の取り組みを知ってもらい、さゆり幼稚園を身近に感じてもらえるように広報活動の拡充を図る。</p> <p>○保育後の業務に関しての時間の使い方の見直し、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身に付け、作業効率を上げる。</p> <p>○各分掌を明確化し、皆がリーダーシップを発揮できるような体制作りを目指す。</p> <p>○さゆり幼稚園がまもなく60周年を迎えるに当たり、全教職員が共通の目的に向かって歩めるように、さゆり幼稚園のビジョンの可視化を図り、一人ひとりがカトリックさゆり幼稚園の教職員としての役割に気づき、資質向上に努めていく。</p> <p>○園舎建て替えに向けて、保護者に安心してもらえるようにしっかりと説明を果たしていく。</p>

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。